

見沼小学校 令和4年度学校経営ビジョン

学校教育目標

仲良くする子 元気な子 考える子

目指す学校像

元気に登校（出勤）し、笑顔で下校（退勤）できる学校

目指す児童像

人生100年時代の土台づくり

世界と向き合い、ゆめをもち、発信力のある子

〇ゆめにつながる「真の学力」の育成

- ・4、5、6年で教科担任制を導入（専門性の向上）
- ・学校課題研究「自己実現に向けて、自らの健康について考え、実践する児童の育成 ～体育指導の工夫改善・保健教育の充実～」の**本発表**→「教える」から「学習者が主体的に学ぶ」授業へ
研究を通して「見沼小AL（アクティブラーニング）スタンダード（仮）」の確立
- ・全教員による全国学力学習状況調査の分析と対策（国語、算数、理科）

教育DX（デジタル・トランスフォーメーション） 学びの自律と個別最適化そして探究化

- ・ICT活用スタイルの確立・・・web・文献検索、児童によるフォームズでのアンケート実施、整理・分析、プレゼンテーション
- ・授業はもちろん、休み時間、係活動、委員会での道具としての活用
- ・リテラシーの向上（例：3年生からタイピング、プレゼンテーション、動画編集、作曲・編曲、プログラミング）・・・スクール・ダッシュボードを見据えた評価
- ・発信力を高め児童間交流へ→「みぬまチャンネル」の周知（見沼小版「TikTok・ユーチューバー」の実現）、交流方法の確立（「いいね」等）
- ・スタディサプリの活用「スタディタイム」「週末スタディ」等、工夫した活用で個別最適化
- ・プログラミング学習の着実な実践（STEAMSタイム）・・・人型ロボットPepperを活用した出前授業の導入
- ・特別支援教育を受ける子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びの実現
- ・みぬまGIGAタブルールの確立（エヴァ、生徒指導部）

〇ゆめをもちグローバル社会で活躍できる豊かな人間性と健やかな体の育成

- ・ICTを活用した異文化コミュニケーションの充実（世界に目を向ける取組）（GS部）
- ・「若田光一宇宙飛行士5回目の宇宙へ」地域から世界へ ISSは国際協力の舞台（GS、STEAMS）科学館との連携（プラネタリウム、打ち上げカウントダウン、ISSを見る会、天体観望会）
- ・高学年が活躍する特別活動「お兄さんお姉さんってすごいな！プロジェクト」（特活部、5・6年）
- ・心のサポート体制・・・安心して「ゆめ」が語り合える学級づくり（教育相談部）
- ・不登校児童へのSC、SSW、教育相談部による攻めの相談、介入（教育相談部）
- ・「欠席状況調査票」を活用した欠席（出停含む）3日目の組織的な初期対応（教育相談部）
- ・ICTを活用した不登校児童への支援（教育相談部）・・・読書量増加プラン（先人から学ぶ）
- ・いじめの早期発見 「見沼小いじめ防止基本方針」の周知（保護者の意識を高める取組）
- ・人生100年時代の生きる力の基盤となる体力の育成（運動好きな子どもたちへ）研究発表

〇地域や保護者との連携

- ・学校の動きが伝わるホームページ（無理なく週3回の更新を行うための工夫改善）
- ・行事ごとのアンケート（フォームズ等）で保護者の意見を集約しPDCAサイクルへ
- ・コロナ禍における授業参観や行事の工夫 YouTube動画配信等
- ・2秒でできる！「靴揃え・あいさつ運動」の更なる充実（生徒指導部）

コミュニティ・スクール4年目として一層の推進（学校地域連携コーディネーターの活躍）

- ・スクールサポートネットワーク再始動（見沼小応援団として出来ること）
- ・レッツジョインクリーン活動への教職員の参加（土曜授業日の午後に設定）
- ・地域教材を生かした教育課程の開発（R3年度の熟議で上がった「東大宮音頭」をきっかけにして）

〇教職員事故防止と働き方改革の一層の推進

- ・風通しの良い職場環境の実現（実りのある倫理確立委員会・働き方研修会の実施）
- ・高学年から持ち時数を減らし、子どもたちと向き合う時間の確保（教科担任制）
- ・危機意識向上のための各種研修の充実（生徒指導、教育相談、給食、保健）
- ・キャッシュレス、ペーパーレスの更なる推進（教材費の口座振替導入、資料のデータ化）（事務室）